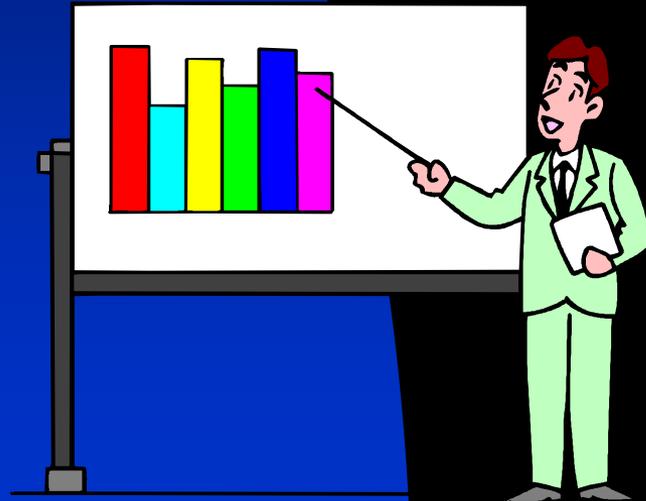


# 財政のしくみ

総務部 財務課



# はじめに

市の財政のしくみや予算のできるまでを  
ご紹介します

「なんだか、とってもむずかしそうな言葉  
ですね！」

「少し、むずかしい話ですが財政のしくみ  
について知ってください」



# 知っておきたいこと

- 「財政」って、なに？
- 市の予算ってどんなもの？
- どうやって予算が作られるの？



# 「財政」って、なに？



- 私たちが生活を営むためには、必ず「お金」が伴います。個人ではこのお金の出し入れのことを「家計」と呼んでいます。国や都道府県、市町村の場合、この「家計」に当たるものを「**財政**」と呼んでいます。個人の家計も市の財政も、お金で収入を得て、それをそれぞれの目的に支出することで経済活動を営むという点で同じです。  
家計の場合、個人の努力により収入を得て、それを個々の目的に使っているのに対し、財政ではほとんどの場合、公的権力（法律や条例）の行使により収入を得て、公の目的にのみ支出しているのが特徴です。このようなお金の1年間を通した収入（歳入という）と支出（歳出という）の予定的な計画が「**予算**」です。

# 家計と財政を比べてみると

家計

衣食住・レジャーなど  
(消費は自由)

個人



給料など

財政

[歳出]

道路・学校・福祉サービスなど  
(公的な目的のみ)

松阪市



税金など

[歳入]

# 市の予算ってどんなもの？



- 予算には、市長の考え方や政策が正直に反映されており、行政の設計書と言ってもいっくらい重要なものです。また、市の基本構想計画に基づき、この計画に盛り込まれている事業を優先的に反映させていくことが大切です。さらに、予算を作成するに当たっては、法令や条例に基づく制約や、予算自体の約束事、あるいは国や県から示される年度ごとの編成方針などを尊重しつつ、市長が市民に公約した事柄を一つでも多く盛り込まれるよう配慮しています。

# どうやって予算が作られるの？ (その1)

- 実際に、予算がどのように組み立てられるかというと、先ず、市長が新年度の予算編成方針を示します(市長が公約したことや市民からの要望などが反映されています)ので、各担当課において、その指示を受け、新年度に実施しなければならない事業を調査研究し、その結果を報告します。それを財務課において集約するわけですが、この段階では収入予定よりも支出予定の方が上回っていることが多いので、集約結果をもとに市長と担当課、それに財務課と戦略経営課が加わり、その中でも緊急度の高い事業をある程度選び出します。次に、各課ではこの結果を念頭において、市長に対し新年度の予算要求書をそれぞれ提出します。
- 「予算要求書」というのは、1年間の仕事(事業)にかかる費用を見積書的に集計した支出の予定と、1年間に入ってくるお金が見込めるお金を集計した収入予定の両方が計上されているもので、これをもとに、「これくらいのお金が見込めるので、これらの事業を実施してください。」と市長に要求する「要望書」のようなものです。

# どうやって予算が作られるの？ (その2)

- 次に、この要求書を受けたら、財務課ではそれらをすべて合算し、財源（いわゆる「お金」のことです）の不足額を把握したのち予算査定に入ります。  
「予算査定」というのは、予算の要求額を審査し決定するということで、「予算調整」とも呼んでいます。事前にある程度事業を選び出しているとはいえ、予算の要求では必ずといっていいほど収入予定の方が足りません。そこで、限られたお金の中で、どの事業を実施するか、あるいは削減、延期するかということ、市長、担当課、財務課、戦略経営課の中で議論が繰り返され、新年度に行うべき仕事が決定的に行きます。
- そして、最終的に収入予定と支出予定の折り合いがつけば、財務課においてこれを編纂、印刷、製本し、「新年度予算案」として議会に提出されます。議会では提出された「予算案」を審議し、これが可決されると「新年度予算」となり新年度（4月1日）から各事業（仕事）ができるようになります。このように、「予算の編成」とは、「予算編成方針の作成」から議会に提出する「予算案の作成」に至るまでの一連の行為を総称して言うものです。

# 予算ができるまでの流れ

要望・意見

公約・構想  
実施計画

市長

予算編成方針

各課

調査・研究・協議

予算要求

各課

集約

財務課

審議

議会

可決

予算案作成

財務課

市長  
副市長  
総務部長  
市政戦略部長  
財務課  
市政戦略課

予算査定

